

# ニューズレター

No. 36

---

---

## 日本英学史学会広島支部 松江研究例会のご案内

拝啓

紅葉の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より、当支部の発展のために暖かいご支援とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、このたび、ラフカディオ・ハーンゆかりの地、島根県松江市におきまして、本年度第2回(通算第49回)研究例会を、来る12月6日(土)に開催する運びとなりました。開催にあたりましては八雲会会長・伊藤亮輔先生をはじめ、地元松江の八雲会の皆様、ならびに島根大学・築道和明先生、広島支部理事・風呂鞆先生には、格別のご配慮を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。

今回の研究例会は、八雲会より小泉凡先生のご講演と日野雅之先生によるご発表、広島支部より風呂鞆先生、野村勝美先生による研究発表が予定されています。ご多忙の中とは存じますが、会員の皆様にはこの機会に是非、松江の地にご参集いただきますようご案内申し上げます。

特に今回は、研究例会のあとに支部の忘年懇親会も企画いたしております。こちらにもふるってご参加いただきますようご案内いたします。

翌7日(日)に小泉八雲記念館ほか、松江市内のハーン関係史跡見学を予定しております。こちらの方へも多くの会員のご参加をお待ちしております。

末筆ながら、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

敬具

日本英学史学会広島支部事務局

<h2>日本英学史学会広島支部 松江研究例会プログラム</h2>
----------------------------------

日時：平成 15 年 12 月 6 日(土) 午後 1 時 30 分～午後 5 時 30 分

場所：サンラポーむらくも

〒690-0887 島根県松江市殿町 369 番地 Tel: (0852) 21-2670

JR 松江駅からバスで 15 分「県民会館前」下車、徒歩 1 分。タクシーで 10 分。松江城、島根県庁より、各徒歩 5 分。

## 研究例会

13:00-13:30 会場受付

13:30-13:50 開会行事

13:50-15:00 特別講演

「ハーン没後 100 年に思う (仮題)」 小泉 凡 (島根女子短期大学)

15:00-15:10 休憩

15:10-15:50 研究発表(1)

「ハーンのお愛弟子・大谷正信—子規・漱石・八雲をめぐる—」  
日野雅之 (松江北高等学校)

15:50-16:30 研究発表(2)

「大学入試の中のハーン」 風呂 鞏 (比治山大学)

16:30-16:40 休憩

16:40-17:20 研究発表(3)

「倉田百三の外国語にふれる—「愛と認識との出発」をとおして—」  
野村勝美 (広島支部理事)

17:20-17:30 閉会行事

懇親会 (18:00-20:00)

## 史跡見学

12月7日(日)午前中 松江市内ハーン関係史跡見学

\*\*\*\*\* 当日の忘年懇親会ならびに宿泊のご案内 \*\*\*\*\*

<会場> サンラポーむらくも

(〒690-0887 島根県松江市殿町 369 番地 Tel: (0852) 21-2670)

<懇親会のみ> 8,000円 (懇親会のみ出席の場合)

<懇親会+宿泊> 12,000円 (懇親会、および朝食付きシングルルーム1泊)

11月17日(月)までに事務局までご出席・欠席、ご宿泊のご希望を、

(1) 電子メール (アドレス: umamoto@bus.hiroshima-pu.ac.jp)

(2) 申し込み用紙をファックスもしくは郵送 (別紙申し込み用紙をご利用ください)

(3) ハガキ

のいずれかでお知らせ下さい。御参加の皆様には追って交通のご案内を申し上げます。

## 松江研究例会を迎えるにあたって：特別記事

今回の研究例会実現へ向けご尽力くださいました風呂鞏先生より、特別記事のご寄稿を頂きました。松江と八雲をめぐる最近の動向を、夏に松江を訪問された際のご報告と合わせてご紹介くださっています。

## 『八雲の五十四年』出版を祝い、銭本先生を偲ぶ集い」に参加して

風呂 鞏

ご承知の如く、島根大学教授および八雲会の会長であった銭本健二先生は 2002 年 3 月 23 日に亡くなられた。今年 4 月に出版された銭本健二・小泉凡共著『八雲の五十四年 - 松江市からみた人と文学 - 』（今井書店、平成 15）が先生の絶筆となったが、来年の小泉八雲没後百年記念を控えて誠にタイミングの良い出版であったと言える。

こうした意味を込めた標記の集いが、8 月 23 日（土）島根県立美術館レストラン「ベッキオ・ロッソ」（イタリア語で「古典的な赤」の意）を会場に企画された。八雲会の若手の有志（日野雅之、園部昭夫、横山純子各理事と田村のり子監事の四人）が発起人となり、約 40 名の出席者があった。16 時から 18 時まで 2 時間の予定であったが、閉会が 1 時間も延長するほどの盛会となった。お蔭で宍道湖の美しい夕日を窓外に眺めることが出来て、思い出に残る集まりとなった。

全体は、祝賀の第 1 部と追悼の第 2 部に分れていた。第 1 部では、伊藤亮輔八雲会会長、内藤守アイルランド協会会長（風流堂社長でもある）『八雲の五十四年』の著者の一人である小泉凡氏の挨拶で始まり、その後次々と祝辞が続いた。第 2 部は、先ず銭本先生の奥様房子氏の挨拶があり、詩や俳句、短歌の朗読を間に挿みながら、島根大学での銭本先生の教え子の方など、追悼の言葉が続いた。

当日配布された資料には、「八雲の五十四年」書評 銭本先生年譜 朗読・朗誦 斉唱 参加者名簿が用意されていた。では、山陰中央新報の紹介記事の他に、同紙掲載の仙北谷晃一氏の書評、中国新聞および熊本日日新聞掲載のもの、『へるん』40 号誌上の田村のり子氏による書評など 5 つが紹介され、では 1943 年 3 月 28 日に益田市戸田町に生まれ、昨年永眠された銭本先生の略歴、業績、八雲会会長時の八雲顕彰行事について纏めたものがあった。には、故銭本健二氏の詩「春の祈り」、田村のり子氏の詩「笑って!」、日野雅之氏の俳句（追悼五句）秀川尚子氏の短歌「御魂に捧ぐ」が載っており、銭本先生を偲んでしめやかに朗読・朗誦された。では、旧制松高 - 島根大学愛唱歌「青春の歌」を全員で声高らかに歌った。

筆者は八雲会の会員でもあるが、今回の松江行きは 12 月 6 日（土）松江市の「サンラポーむらくも」で開催される日本英学史学会広島支部、平成 15 年度第 2 回研究例会の打ち合わせも兼ねていた。支部長小篠敏明先生および事務局長馬本勉先生の意向を受けて、八雲会からは小泉凡氏の特別講演、八雲会会長伊藤亮輔氏のご挨拶、八雲会会員からの研究発表一つをお願いした。先方の予定もあり、確約は頂けなかったが、現地の八雲会会員に連絡し、協力は惜しまぬとの善意ある回答を頂き、安堵した。

以上が 8 月 23 日に松江で行われた出版祝いと銭本先生を偲ぶ集いへの参加報告であるが、少しく個人的な行動についても触れておく。

翌日は、ハーンの松江時代の親友、西田千太郎の旧居（現在の家主はお孫さんの桑垣琴子様で非公開）を訪問させて頂き、ハーンの直筆書簡などを拝見させて頂いた。先頃 NHK ドラマスペシャル「日本の面影」が再放映されたが、ハーンと西田が語り合ったであろう、正にその部屋に案内されて桑垣様からお話が聞けたことは感激の極みであった。去る 7 月の八雲会定期総会で、八雲会理事、島根史学会会長池橋達雄氏の記念講演「『西

田千太郎日記』刊行のころ」があり、その後長満寺に墓参もしていたので、尚更感無量であった。

松江を離れる前、時間の関係で、小泉八雲記念館や旧居を巡る“レイクライン”(バス)への試乗は出来なかったが、“ぐるっと松江堀川めぐり”(大人1,200円、1周約45分)の乗船も楽しんだ。残暑の厳しい2日間であったが、充実感をもって帰広した。

(2003・8・25)

## <<広島支部ニュース>>

このたび次の方々を新入会員として迎えました。

上原義徳(広島大学大学院(院生))      小野 章(広島大学大学院)  
田村道美(香川大学)                      中村愛人(広島大学大学院)  
瀨口 脩(広島大学大学院)

## 日本英学史学会全国大会報告

本年度の第40回日本英学史学会全国大会は、平成15(2003)年10月4日(土)～10月6日(月)、熊本市の崇城大学を会場として行われました。熊本バンド、ハーン、漱石と、英学に縁の熊本らしいテーマの講演、シンポジウム、研究発表の数々が行われ、盛会でした。広島支部からは「太平洋戦争中の英語研究」と題する松村幹男先生の研究発表が行われました。江田島の海軍兵学校英語教官による英語研究会のお話は特に興味深く、フロアを交えた議論も大いに盛り上がりました。また、隈 慶秀先生からは「福岡の旧制中学校外国人教師 鷗外と親交のあった James Hind について」と題するご発表がありました。新聞記事、追悼記事、学校一覧など、大変豊富な資料に基づく緻密なご研究でした。

<<広島英学史の周辺>> 今年も残すところわずか2ヶ月となりました。12月の松江研究例会は記念すべき会となります。ぜひご参集ください。10月に庄原・広島県立大学で行われたリカレント講座で「庄原の英学を訪ねて」と題する2講座を馬本が担当しました。第一回は「庄原英学校について」庄原出身の森修一氏による『ナショナル・リーダー独案内』の紹介を行いました。第二回は「倉田百三と英学」三次中学校時代の百三の英語学習と、英訳された倉田の3作品(グレン・ショー(訳)『出家とその弟子』、安藤貫一(訳)『俊寛』、平野梅代(訳)『親鸞』)を紹介しました。人生の大先輩ばかりの受講生の中には、庄原英学校ゆかりの方や倉田百三研究者がいらっしまったこともあり、緊張の連続でした。研究途上の拙い発表でしたが、とても熱心な受講生の皆様から新たな情報や有益な示唆を頂き、大変勉強になりました。講座の資料をまとめるにあたり、寺田芳徳先生、野村勝美先生より多大なるご支援を賜りました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。(馬本 勉)

日本英学史学会広島支部ニュースレター No.36	2003年11月5日発行
発行	日本英学史学会広島支部(代表 小篠敏明)
事務局	〒727-0023 広島県庄原市七塚町562番地 広島県立大学 経営学部 英語研究室内(馬本 勉)
	電話: (08247) 4-1725 (研究室直通)
	e-mail: umamoto@bus.hiroshima-pu.ac.jp